引揚 慘たる會見の幕
電業員代表者の態度に 憤慨する大電從業員

解雇者代表七名の作業服姿が大電中之島本社の重役室に膝を下した時、河合常務取締役を中央に若林技師長、木村取締役の三つの顏がソノ向側にいかめしく浮んでゐた——十三日午後四時十分から開かれた大電解雇者と會社側との會見の幕開きである

「嘆願書を一應差出します」白い紙片が村井謙五郎代表の汚れたポケットから河合取締の眼へ移される、二分間餘り沈默が續く「今回の解雇は不穩なりと思惟するに依り解雇之を取消され度し——へ、アこれが第一條ですネ」といふ河合氏の聲に續いて

私共は今回の解雇は主任、課長の感情から割出した不當なものと認めます、電業員組合を破壞する爲めにされたものと思ひます、此の一例には電業員組合員で勞働運動に關係するものは悉く解雇されてゐます

と村井代表の低い調子が強い底力に顫へる

それは誤解でせう會社は六月一日から十六燭光一箇月の料金を五十五錢五厘から五十二錢まで値下げねばなりません、その缺損が一箇年十六萬圓でチョレを補ふために餘儀なく淘汰をやつたので其の標準の如きも(一)不業成績不良な者(二)仕事の能率の低いもの(三)老齢なもの(四)他の從業員の能率を低下せしめる行爲ある者と云つたやうに極めて正當な點に取つてゐるのです

河合氏の顏面神經がピリ、と動くと第一條の嘆願が刎ねつけられた七代表の肩が物凄く波打る

中村代表が俳倖しの解雇な詰ると「だから木村一律の日給を差上げて謝意を表したと同じやうにしたのだ」と身を躱される

卓上電話が鳴つて高橋課長が様子を覗れて來る、押問答は更に進む

第二條の二週間以上の豫告云々も研究するとのみなので結局代表側は會社の誠意を認めぬと叫び「今後如何なる問題が起らうと私共は知らぬ、私共に責任はないと思つて呉れ」

と捨科白を殘して席を起つた、時計は正に四時四十分、始めから丁度卅分だ、——會見の幕を閉ぢた實行委員七名中、奧上、酒井、山端の三委員は本社に殘つた中之島營業所に起き勞醫を提げた機待隊へてゐた從業員に對し會見前の石段上に突立つて會見の顛末を報告するや一同は「モウ此上は最後の手段だ」と立膝り入替り激越な演說を試み憤慨の氣を漲らせた

高津營業所其他へは翌朝報告する事とし委員一同は取敢へず天王寺筆ケ崎の組合本部に引取り協議を重ねた結果、今十四日午後各支部所在地に報告會を開くと共に本野島谷館で電業組合第一聲支部大會を開き大電乱調の第一聲を擧げ尚引續き演說會を開き會社の不誠意さ組合に對する壓迫を市民に訴へる筈である

同情怠業 を續ける模樣

從業員の意嚮を聞くに此際各營業所、變電所が相互連絡を採り解雇された同僚に對する同情怠業を行はうとするもの、如く直接會社從業員のみならず川口之に作業を共にしてゐる電氣用具供給の諸會社從業員も何等かの應援をなす模樣である之に對して會社は十二日以來嚴重監視の眼を瞠り十三日午後も若林技師長自ら工作場を巡視し怠業してゐる者を追立て、廻つたが當分は各所共此怠業氣分を一掃し難い形勢である

怠業から罷業へ
職工解雇から形勢惡化しつゝある大電

大電の職工解雇に關し電業員組合は各自分擔を定めて運動する事に決し中之島では午前九時から營業所前の廣場に蝟集して交互に熱烈な演說を試み勞働歌、革命歌を高唱して氣勢を高めてゐる內に「寒いから火を焚け」と云ひ出したものがあり廣場で盛んに火を焚き始めたので素破事こそと警戒の警官は中村義明、山端清、中西辰夫の三名を所轄川口署に檢束したので二百名の人々は一層強い刺戟を受けて怠業が罷業と變り鯨波の聲をあげて一日を遊び暮すと稱して十三方面へ走り去つた同時高津營業所では田邊主任が實行委員の屋內に入る事を拒絶しやうとしてゐたが何時の間にか三々伍々入込んで巧に報告の演說を開始し終つて附近の民家に引揚げて協議を凝らした尚天下茶屋營業所は一同阿倍野神社境内に集まつて之も同じく怠業が罷業と變つてゐる一方會社側では若林技師長は早朝から自動車を飛ばして對策を講じてゐた總同盟では十四日夜堺事會を開いて大電に關する協議をすることになつた猶川口署に檢束された三名は午後二時說諭の上返された

騷擾罪に問はれた
川崎造船所の職工
五十五名の公判開かる

昨年七月神戶川崎造船所勞働爭議の際騷擾罪に問はれた大迫友一外五十四名の第一回公判は十四日神戶地方裁判所大法廷で開廷された五十五名といふ多數の被告がある上辯護人も十數名に達し法廷の大半を占めた上多數の傍聽者が開廷前から突寛けたので神戶裁判所初まつて以來の混雜で相生橋署から十名に近い巡査が出張して法廷內外を警戒した午前十一時過ぎ訊問開始先づ被告の住所氏名年齡前科の有無等を質した上染谷裁判長は「先づ大迫友一、阿部隆、福森與太郎、西田鐵造、中野二郎の五名から取調べるが、彼等は七月七日工伍長室に侵入した一同の先頭に立つたもので友一は提灯や圖面など事務所に在つた物品を取つて投げつけ硝子戶を破り隆は撲れと絕叫し與太郎は伍長山田久太郎の部倉を取つて倉庫に押付けまた鐵造は電燈爐風器などを破壞したものである」とてそれ等の事實につき審問を進めた

殘留者は怠業狀態
報告演說で氣勢を揚げる

新築の甲斐なく大電本社の鬱な拒絶を見た電業員組合幹部は十三日夜來南區天王寺筆ケ崎町の本部に籠つて敵情を探り協議を凝らしたが十四日早朝實行委員は四方面に分れて中之島、高津、平野、天下茶屋の各營業所に報告演說に出張各所の殘留職工は何れも怠業狀態で是等委員を迎へ熱狂的に演說を聽取した

就中猛烈なのは中之島營業所で午前九時中村義明、山端清、中西辰雄、杉谷甚一郎、吉田正勝等五名の委員到着、前日の會見顛末を報告中突如川口署から警官出動中村、山端、中西の三氏を業務執行妨害の名で檢束處分に附し一場の騷ぎを惹起した

又高津營業所では午前十時奧上原一、杉崎某外二名が殘留職工と紛れて所內に入り込み約三十名の出勤職工に對して報告し同九時引揚げ、天下茶屋には石川、酒井の二名、平野署には池端、中田の二名何れも長時間に亙つて演說し氣勢を煽つた

因に檢束を受けた中村外二名は同日午後一時檢束を解かれた

淀川堤に集會 馘首職工約百名は十四日午後二時頃から淀川堤防に集合更に何事か協議を凝してゐる

川崎刻印事件で
技師以下五名收監
印章僞造並に行使として 十四日令狀を執行さる

【神戶電話】神戶地方裁判所で豫て取調中であつた川崎造船所低造刻印事件に就いて十四日之れが關係者である同造船所技師服部芳恭外四名に對し印章僞造並に行使として令狀を執行橋分監に收容された

『要するに要求は斷る』
大電と交渉委員の會見

夕刊所報＝大電の馘首問題を不當と敦圖へ電業員組合では十二日七名の交渉委員を擧げ嘆願の形式で會社側を鞭詰すべく午後四時會社に赴いた、之より先宮崎社長は之を豫期して一行の來るのを待ち受けてゐたが午後三時に至るも來ないので一切を河合常務に任せ外出して了つた後だつたので拠なく河合常務と會見

會社側からは木村取締、若林技師長等も列席して、愈交渉の幕は開かれた、先づ委員側から

一、今回の解雇は不當なりと思惟するにより全部之を取消されたし

二、今後若し解雇の必要ある場合に於ては二週間以上の時日を以て豫告せられたし

怠業を續く 大電職工

大電殘留職工は引續き十五日も消極的怠業を續けてゐるが會社側の態度は次第に強くなり解雇された連中は一步も門內に入らせず殘留者でも怠業の疑ひあるものには一人に一人の監督員を付けて監視し事業場に泊付するので從業員は一先づ外には出て部署には着くが一向仕事はせず夜業此處に集まつて議論にのみ花を咲かせて居る、一方日本勞働總同盟では昨夜大電の爭議へ應援を決議したのは既報の通り十五日は數十名の野武士團が自動車に乘つて怠業するやうに監視をして居る尚天王寺筆ケ崎電業員組合事務所では十五日午後一時に至り十六日夜發會式を擧ぐべき市電の交通勞働組合員數十名が會合し東京交通勞働組合長中西伊之助氏を先頭に組合本部を訪ね示威運動を行ひ各電業組合支部でも本部に向つて示威運動を行ひ各方面から大電職工の爲に應援した

四厘上げで 護謨爭議解決
十八日から就業

紛糾を重ねた神戶の日本、東洋、中央三護謨會社の勞働爭議は十四日職工側から提出した要求書を會社側が斷然拒絶したので十五日朝更に勞資折衝の結果最初の値下げ案より四厘引上げ即ち軸並べ一足につき標準賃銀九錢四厘と定め十六日から全部就業する事に決して解決した